

愛媛労連

愛媛地方労働組合連合会

〒790-0003 愛媛県松山市三番町8丁目10-2

愛媛自治労連会館3F

Tel 089-945-4526 FAX 089-945-8195

E-mail: ehimerouren@kind.ocn.ne.jp

URL http://ehime-roren.org/



愛媛の最低賃金1,033円 (前年+77円) 12月1日発効

全労連四国・学習交流集会11.22~23



自分のために仲間のために 「だから労働組合」語り合い交流



11月22~23日、伊予市での「第25回働くものの学習交流集会」(全労連四国B協議会、学習協四国ブロック協議会主催)に4県31人が参加。『だから労働組合〜生活・平和・〇〇』をテーマに、「職種や地域を超えて、つながろう!仲間と交流し、運動のヒントを一緒に探ろう!」とよびかけ開催しました。

《2日目・全体会》小松康則さん(大阪府職労委員長)が「労働組合ってなんだろう?お互いに考え、話し合ってみよう」と、グループ討論を交えながら、自身の経験を語ってくれまし

た。◎参考になった反省と実践…①組合員との「温度差」をどうすれば埋められるのか。組合員の力を引き出すには時間がかかる。組合員を信頼して待つことも大事。待つための「仕掛け」づくり。役員の気持ちに余裕がないと組合員に寄り添えない。②参加したくなる組合活動にするために。まずは役員が楽しく元気に。誰でも参加できる、参加したいと思える工夫。当事者の声を出発点に。大きな単位ではなく、小さくても声を出せる機会を多くつくる。参加し発言しやすい雰囲気づくりを。「それならできる、で

きそう」を大切に。③組合員の声を聞く「仕掛け」づくり。役員が長く話すはNG「聞くだけで疲れる…」の本音。毎月1週間連続の本庁ランチタイム集会。定期大会はグループ討論をメインに。出た「声」を大事にし、小さなことでも実現めざす。組合活動が組合員の「自分ごと」になる。

《1日目》オープニングで班分けと自己紹介し、レク「モルック」で班対抗戦を実施(写真)。初めて競技した人から「思わぬ得点が入ったり、意外と簡単で楽しめた」の感想がありました。

県民大運動・学習講演会10.19

くらし改善へ、対話と共感・行動よびかけよう

10月19日、県民大運動各界連(県民大運動愛媛各界連絡会議)が松山市で学習会を開催し40人が参加。「なぜ暮らしは苦しいのか?解決への展望を学ぶ」と題し、石川康宏さん(神戸女子学院大学名誉教授)が。7月参議院選挙後3カ月「政治空白」が続き、生活改善や物価対策など国民の願い・解決の動きが見えないなか「くらし改善への展望と課題」について講演。



○選挙結果とその後の状況から「若い世代の政治への関心」が広がっている、○幸福度世界2位(日本55位)のデンマークは「労働も教育も医療も国民の生活を第一に考える社会」と紹介、○日本の全世代で「新自由主義・自己責任社会」に対する疑問と批判が広がっている、○日本人ファーストへの支持は「自分の生活を何とかしてほしいという期待」などと指摘。組合も各団体も、○こんな暮らしと社会を一緒につくろうとのよびかけが大事、○まわりの共感を広げるために大事なものは「聞くチカラ」=話す側が「黙るチカラ」、○会議のやり方を変え、みんなが納得して決めよう、○ボトムアップで決め、みんなで実践する組織づくりを一など提起しました。

地方自治研究愛媛県集会11.9

「災害に備え、復興に備える」各地の実践を学び交流

11月9日、自治労連県本部は松山市で「第66回地方自治研究愛媛県集会」を開催し62人が参加。午前の全体会で、田中正人さん(追手門学院大学教授)が「巨大地震、集中豪雨、災害への備えと復興への備え」と題して記念講演。過去100年間の日本の自然災害の推移を紹介し「1995年の阪神淡路大震災以降再び『災害多発期』となっている」「大規模災害のたびに『関連死』割合が増えている」ことなどを指摘し、「復興の主体は誰か?誰のための政策(防災減災&復旧復興)か?」と問題提起。被災者と被災地域の主体的実践に学ぶ全国各地の事例を紹介し、「当事者の声を『ノイズ=雑音』とする復興政策ではなく、当事者の声と実践を『リソース=貴重な材料』と捉える復興政策へ、価値と発想の転換が必要」と提起しました。山内治さん(松山市職労委員長)が「自治体直営の現業職場だからできる災害への即応体制」を実践報告。午後は、①防災計画・避難計画など対策分科会、②水道・現業・医療介護など現場対策分科会、③保育交流分科会「県内市町の保育災害対策アンケート」をもとに交流、④青年講座「避難所運営ゲーム」避難運営をシミュレートしてみる一で話し合いました。



11.11

松山市駅前

介護の日・宣伝行動



愛媛民医連と愛媛労連の15人が、介護保険制度の抜本改善、処遇改善を求める宣伝を実施し、1時間で50人の市民が署名協力。

11.21

県庁

県民大運動・県予算要求要請



愛媛労連、県商連、新婦人、愛媛民医連ほかの代表が参加し、2026年度の県予算編成で物価高騰のもとで県民生活を支援する県独自政策を要望。

11.25

愛媛大学

過労死等防止対策推進シンポ



厚生労働省主催で開催され約70人が参加。全国医師ユニオン代表が講演し、県医師会女性医師部会長らがパネルディスカッションで発言。

建交労・なくせじん肺キャラバン10.1～

なくせじん肺! 愛媛全県と四国・全国で行動

10月1～8日、建交労県本部は「なくせじん肺キャラバン」愛媛県コースを実施し、上島町除く19市町と愛媛県庁・労働局に要請。県庁前の出発集会に15人が参加し、中川委員長が「現在も毎年200人前後の重症患者が認定されている。じん肺根絶のためにはまだまだ運動を前進させなければならない」とあいさつ。今年は、じん肺・アスベストを検査できる医院と医師の確保を要請し、松山市では「医師会に要請内容を紹介する」と回答がありました。また、来年の健康相談会の後援・広報の記載・会場の提供をお願いし、例年通り協力を得ることができました。10月15日には「なくせじん肺キャラバン四国集会」を高松市で開催(写真)し、四国4県から42人が参加。集会後、香川労働局、国交省四国地方整備局、香川県・県議会へ要請。10月23・24日の「東京集結集会」には全国200人(愛媛3人)が参加。国会議員要請行動などの後、衆参両院に「じん肺根絶署名」を提出するデモ行進を行いました。



じん肺根絶へ「なくせじん肺キャラバン四国集会」=高松市10.15

愛媛一般労組・定期大会10.5

組合員の集まり・学び・交流の場つくろう



愛媛一般労組・定期大会=松山10.5

10月5日、愛媛労連・愛媛一般労働組合は「定期大会」を開催。1年間の取り組みについては、愛媛労連労働相談センターと連携して、ハラスメントや解雇、賃上げ要求など寄せられた相談から加入や組合結成に結びつけ、団体交渉で要求の前進や納得のいく回答を引き出してきたことを報告し共有。課題と今後の取り組みとして、○組合員の定着や次世代の役員づくり、○組合員の集まりや学び・交流をもっと重視していくことが強調され確認。役員選出では、委員長に稲葉美奈子、書記長に今井正夫が再任されました。

県国公・定期大会10.25

国民の権利と安全安心を守る運動広げよう

10月25日、愛媛県国公「定期大会」に9単組が参加し、○公務公共サービスの拡充、○全国一律最賃アクションやビクトリーマップ運動に結集した賃上げ、○誰もが安心して働き続けられる社会をめざす「運動方針」を決定しました。



愛媛県国公・定期大会=松山10.25

西条周桑労連10.6/新居浜労連10.29

「最賃改善・地域活性化」など活動強化を



新居浜労連・定期大会=新居浜10.29

■10月6日、西条周桑労連は「定期大会」を開催。横井議長が開会あいさつで「危機迫る国内外の情勢を見ると、戦後80年・被爆80年の今年、核廃絶へ向けた一層の取り組みが大事。国民が物価高にあえぐいま、あらためて最賃の問題について取り組みを強めることが必要」と強調。今後の取り組みでは、組織拡大に力を合わせる事が提起され、

運動方針案等について全会一致で可決。横井議長・戸田事務局長など新役員を選出し、団結ガンバロウで大会を終了しました。

■10月29日、新居浜労連は「定期大会」を開催(写真)。「正規保育士の応募がない。国が言う『ゆとりある保育』とは程遠い」「早期退職者が毎年20人程度ある。人員不足で十分な住民サービスができない」「活動3割・遊び7割で組合員を増やしたい」「高市内閣の医療費削減政策を打ち破る署名を全力ですすめたい」など、全員が職場の現状や活動の経験を発言。○最賃引き上げで市や経営団体への要請行動を強める、○労働相談などに役立つホームページ開設を検討する、○次世代役員育成に意識的に取り組むことなどを決定し、近藤議長・末田事務局長など新役員を選出しました。

今年の人事院勧告は、全世代を対象に俸給表の引上げ改定となり、積年の要求であるマイカー通勤手当等が改善されたことは運動の成果です。しかし、生活改善に及ばず、本府省のみ比較企業規模1,000人以上とし職員の不公平感を招くもので、非常勤職員はゼロ回答で、再任用職員は一時金の月数が常勤職員の約半分という差別的な水準が放置されたままです。

実質賃金の改善につなげ、解消されるべき重要な問題の解決のために、組織強化拡大に全力をあげる、「国民の権利と安全安心を守る運動」をたたかいの基軸に、憲法改悪を許さず、あるべき公務・公共サービスを確立するため、職場と地域で奮闘することを確認しました。

食健連・グリーンウェーブ10.14

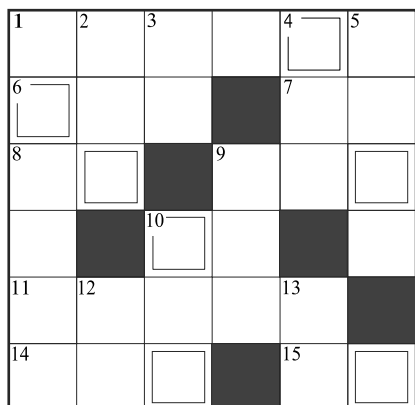
生産者と消費者の共同で農業と食料を守ろう



11月10～21日、国民の食糧と健康を守る愛媛県連絡会(県食健連)は県内全自治体と全農協を訪問し、「家族農業を守り、食料の増産によ

る自給率向上と食の安全をめざす農業政策への転換を求める共同申し入れ」を実施。11月14日はJ A今治立花とJ A越智今治を訪問し意見交換。竹中県食健連事務局長が「コメの問題が国民的課題となっている。日本の食料自給率はわずか38%で、生産者と消費者の共同を広げ、農業と食料を守りたい。年内に愛媛県要請と農水省交渉を行うので、

生産者と農協の意見・要望を聞かせてほしい」と述べ、組合長や営農担当常務と懇談。農協側から「コメ価格は昨年の約1.8倍で、生産者には喜ばしいが、消費者には高すぎると感じる。来年は下がるのではと心配する声もあり、生産者に支払われる適正な米価の維持を要望している」などの話がありました。



クロスワードパズル (おたのしみ プレゼントつき)

【タテのカギ】

①キャベツと豚肉を甘辛く炒めた中華の一品 ②屋根裏部屋 ③めぐりあわせがいい。○○運 ④花言葉は、謙虚、誠実、小さな幸せ ⑤——漁業。船で大型の袋状の網を海底や水中を引いて魚を捕獲する漁業 ⑨刈り取ったイネの穂 ⑩片田舎 ⑫「買う」の対義語 ⑬○○うと。眠りが浅い 【ヨコのカギ】 ①史上最悪のジェノサイド(大量虐殺) ⑥イギリス第2の国歌といわれる行進曲。○○○堂々 ⑦スペイン

出身のピカソと並び20世紀を代表する巨匠 ⑧中国の西安、ポーランドのクラクフ、日本の京都など ⑨インド料理といえば ⑩ふち。はし。量の○○ ⑪企業が労働者に提供する労働条件の最低限の基準を定めた法律。略して ⑭「梗」なんと読む。対義語は「糯」 ⑮ネパールの伝統的な帽子

【※切】2026年1月末日消印有効 【337号正解】均等待遇 【当選者(敬称略)】小野真由(全労働愛媛支部)/小野珠季亜(新居浜市職労)/島道子(年金者組合宇摩支部) 【お便り】▼急に寒くなって温度差に体がついていきません。体調を崩さないように気を付けたいと思います(新城美希・市立宇和島病院労組) ▼お昼休みにみんなであらゆるクロスワードパズルを一緒に解いているんですが、先輩の回答速度が速すぎていつも驚かされます。今後も楽しくやっていきたいです(匿名希望)



0120-378-060

月～金曜日(祝日除く) 14:00-18:00

労働相談センターは、労働者の「かけこみ寺」として相談者に問題解決のアドバイスをしています。

【応募要項と景品】ハガキに答えと住所・氏名、組合名、愛媛労連に対する意見、職場のことなど一言を書いてください。メールでも可。正解者の中から抽選で3人の方に図書カードを進呈します。一言は趣旨を変えずに記載させていただくことがあります。【送り先】愛媛労連「クイズ係」宛て FAX 089-945-8195 メール ehimerouren@kind.ocn.ne.jp